



週)報

2012~2013年度))) R I会長)田)中)作)次)
『奉)仕)を)通)じ)て)平)和)を』)
))))))))))第 2570 地区ガバナー)鈴)木)秀)憲)

国際ロータリー
第 2570 地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会場〕狭山東武サロン〒350-1305) 狭山市入間川 3-6-14)TEL)04-2954-2511
〔事務所〕〒350-1305)狭山市入間川 1 -24-48)TEL)04-2952-2277)FAX)04-2952-2366
<http://www1.s-cat.ne.jp/schuohrc/E> - mail:schuohrc@p1.s-cat.ne.jp
会長)若松泰誼) 会長エレクト)栗原憲司))副会長)山室博美))幹事)稲見)淳

〔第 3 グループ内の例会日〕 狭山(金)、新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(月)、所沢西(水)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第 927 回(12 月 18 日)例会の記録

点 鐘 若松泰誼会長
合 唱 我らの生業
第 2 副 S A A 沼崎君、小幡君

出席報告

会員数	出席者数	出席率	前回修正
30 名	25 名	81.48%	92.86%

パスト会長の時間

柴田パスト会長



今日はたまたま最近入手した投稿の内容を朗読したいと思います。

筆者は中山恭子さんと、ご存知の通り中山恭子さんは私の年度の時、平成 20 年 2 月 16 日に、皆さんにお集まり頂き、皆様の協力に基づいて成功に終わった「新春の集い」がございました。中山恭子さんに対しては、私はその後も動向を、非常に興味をもって見ておりますが、今回の選挙ではご主人であります中山成彬さんが、維新の会から出て比例で当選したという報告を受けほっとしているところでございます。

「拉致事件対応が現すわが国の異常さ」

参議院議員 日本維新の会 中山恭子

戦後 67 年、サンフランシスコ講和条約発効から 60 年を経て、日本は、未だに敗戦の病から立ち直れず、自信を喪失したままの状態にある。敗戦とそれに続く占領政策を検証し、客観的に善し悪しを判断し、これからの日本のあるべき姿を打ち立てなければならない。

日本人々は、平和の尊さを実感し、自由主義や、民主主義、個人主義など多くのものを学び、受け入れ、そして懸命に働き、経済の繁栄を得た。しかし残念なことにその中で、大切なものを置き去りにしてきてしまった。

北朝鮮による日本人拉致問題に取り組む中で、

日本という国の弱さ、危うさに愕然とすることが何度もあった。ごく普通に生活していた人々が、外国から忍び込んだ工作員に袋詰めにして連れ去られるなどということが、日本各地で起きていたとは、何と情けない国なのだろう。なぜ日本は国民の拉致を防げなかったのか。被害者が北朝鮮にいと分っていないながら、なぜ日本は国を挙げて救出に当たれなかったのかとの無念さ、強い憤りを感じてきた。警察組織に欠陥があったのか。国防力が弱いかからか。日本社会全体が冷たいものになってしまったのか。多くの要因があり、その全てが関わっていると考えられるが、その遠因には戦後の占領政策と占領下で急ごしらえで作られた現行憲法があると言えるだろう。

「敗戦」。国と国との戦争では、敗者は二度と立ち向かえない国となることを強いられる。戦後日本は、終戦という言葉で「敗戦」という現実から目を逸らしてきた。敗戦のショックを和らげるために用いられたこの言葉が、皮肉にも、その後日本が真に立ち直るのを遅らせてしまった。

国際紛争では戦争の責任は敗戦国にあるとされるのが常であり、東京裁判でも全て日本が悪かったと判断された。更に根深い問題は、日本人自体がその説をその通りに受け入れて、疑いを持つことすら悪であるという風潮に支配されて来たことだ。洗脳され、日本人は戦後骨抜きになってしまったと言われるが、愛国心という単語を使うことすら拒否されてきたことは誠に情けないことである。終戦の昭和 20(1945)年から昭和 27(52)年までの 7 年間、日本は占領下に置かれ Japan ではなく Occupied Japan だった。日本国憲法はこの占領下の昭和 22(47)年 5 月 3 日に施行され、今年 65 年が経つ。

7 年間の占領下で採られた政策は、徹底した日本弱体化政策であり、憲法は無論、皇室改革、財閥解体、農地解放、教育制度改変、伝統文化の否定、家族解体など、日本の強さの根源であったあらゆる分野に及んだ。

戦後、日本は天皇制を何とか維持出来たが、連

合軍の皇室改革指令により、天皇は象徴天皇となり、多くの皇族が皇籍離脱を余儀なくされた。

占領下では、日本の文化や伝統は徹底して排除され、悪であると教え込まれた。私が通っていた小学校では、習字の授業がなくなり、文字は記号に過ぎないと教えられた。剣道などの日本の武道も大学まで一切禁止され、礼に始まり礼に終わる武道の精神は排斥された。

また、個人主義の名の下に、日本の家族が壊された。憲法第 24 条には「婚姻は両性の合意のみに基づいて成立し」と書かれている。この発想は連綿と続く祖先への敬慕や、社会や地域との繋がりを忘れさせるものだ。

大正 11 (1922) 年の冬、アインシュタイン博士が日本を訪れた際、日本の家族の温かさを称賛し、西洋の個人主義の孤独さを嘆く文章を残しているが、家族は人が人生を送る上での要であり拠り所である。家族をこよなく大事にしてきたのは日本人の知恵であり、誇れる文化である。

教育面では、終戦直後からソ連のコミンテルンの指示を受けて勢力を拡大した日本教職員組合の活動、反日、自虐の思想を日本国内に広める活動が、長年に亘って日本を蝕んできた。聖職者として尊敬される存在であった先生が、教育賃金労働者でしかなくなった。子供達の個々の能力を伸ばすのではなく、金太郎飴のような画一的な教育が良しとされてきたが、これはコルホーズや国営企業に労働力を提供すれば良いとする共産主義思想に根差している。昨今のいじめや学級崩壊の問題も、いじめを見て見ぬふりをしたり、仲間内での庇い合いなどがあることその他、子供たちに目を注ぐ「師」の存在が極めて小さくなってしまったことが大きいと考える。

7 年間の占領が終結した昭和 27 年の段階で、その間の政策について憲法も含め、日本自らが検証し直すべきは正しておかなければならなかった。しかし戦後の日本は、余りにも敗戦の影響が大きく、自立から目を逸らし、経済の復興に邁進し、文化や社会の根本に目を向けて来なかった。大切なものを失い、戦後シンドロームから脱却できないまま、今や、傾注してきた経済までも輝きを失いつつある。

拉致問題を見れば明らかのように、厳しい国際社会の中で、独立国家として平和を維持していくには、多くの努力、エネルギーが必要である。国が自国の領土を守り、国民を守るとの意思を強く持たず、国民が自分の国を愛していないような国家は、平和を維持することも出来ず、消滅するというのが現在の国際社会の掟である。甘えは許されない。日本の現状を見れば、日本は未だ敗戦という病の中にあり、健全な国家の体を成していない。

まず、日本が古来培ってきた文化、風土をもう一度認識し直し、それを根底に据えた憲法を制定し、教育や社会の在り方を変えて行こうではない

か。経済分野にもこの文化の底力が加われれば日本は更に発展する力があると信じている。

日本が育んできた文化は素晴らしい。長い歴史を持つ日本は古来、この湿潤な風土の中で様々な争いごとを解決し、和をもって暮らす術を培ってきた。相手を思いやり、どうぞお先に、ご遠慮なくと生きてきた。この生き方の中には相手の人格、尊厳を認め尊重するとの概念が既に内包されている。また、どんなものにも神々が宿ると信じ、自然を敬いながらまじめに暮らしてきた。これらは正に日本の文化、風土である。

さらに、戦後受け入れてきた個人主義や自由主義についても、日本で蔓延る似非のものを捨て去り、その真の考え方をもう一度学び直すことも必要であろう。

個々人が自分だけの自由を主張し、良い社会が出来はずがない。自由には自ずと規律があり個人の自由がある程度制限されることを、日本の人々は受容する力を持っている筈だ。

ヨーロッパの人々はチーズは普遍的に美味しいものであり、美味しいから食べなさいと薦めるが、日本人は納豆を「もし良かったら」召し上がれと差し出す。相手を尊重し、「人権」などと声高に叫ぶまでもなく自然に、相手の存在に思いを至しているのが日本の文化である。この文化は、ポストモダンたる 21 世紀の国際社会において重要な役割を果たし得ると考える。

他を思いやり、共同体として和を重んじ、自己の責任を果たし誠実に生きる国柄の尊さを我々自身が再認識し、多くの苦難に苛まれている現在の状況から力強く抜け出そうではないか。

今、日本の人々が覚醒し、日本の自立を取り戻す最後の機会である。

50 年後、100 年後の日本が、豊かで調和のとれた、国際的にも信頼され尊敬される、毅然たる国家となるために、日本中の叡智を集め、議論し、その礎を築いていきたい。

(新聞「アイデンティティ」第 58 号 10 月 1 日号より)

幹事報告

稲見幹事

1. 第 2 回クラブ奉仕部門(公共イメージ委員会セミナー)開催について
2. 2012 年度 R L I 開催について
3. 2013 年リスボン国際大会、鈴木ガバナーナイト開催について
4. 地区事務所年末年始の休業について
5. 2014~2015 年度 R I 会長について
6. 米山記念奨学部門委員長より
7. 中井ガバナーエレクト通信について
8. 受贈会報 入間 R C 所沢西 R C
9. 例会変更 入間南 R C
10. 回覧物 ハイライトよねやま 1 5 3

帰り、日本全国へ茶を広めたと歴史の本には書かれておりますが、「言われている！」という表現であり、それ以前に、日本国に自生していた、いわゆる「山茶」(山林等に自生している在来種)が存在していたとする文献もあるようで、定かな所は不明であるようです。

狭山茶の産地としては、県西部、ちょうど2570地域全般に分布しており、生産地は入間市、所沢市、狭山市であります。特徴としては、北限の為葉肉が厚く、その味は濃厚であると言われております。しかしながら当産地は、都市化や農地の拡大や大型化が他産地よりも不利な為、産地間競争にも遅れをとり、30年来、生産量も減少の一途をたどり、面積も1/3程度になってしまいました。

《我が社では》

私事ながら、狭山市の業界団体の長を務めながらも、狭山茶の生産の消費の拡大、挽回を図りたいと願っています。それにはまず、安定収入を元とした農家の後継者の育成が必要不可欠であります。今後は他産地との差別化や、こだわり、獨創性により付加価値を増大させ、業界全体の消費の拡大に努めていきたいと思っております。

我が社(有)古谷園は、4代前の彦太郎より創業、茶に携わります。当時は現在のような機械製でなく、近所の職人を集め、ホイロによる手作りであります。本業でなく副業的なもので、当時の日本の伝統的な農業形態である複合経営での作目の中の一つであり、米・麦・その他の穀類や家畜の肥育等の一部であり、茶専業ではなかったようです。戦後日本の農業も、単一作目に専門化していったようです。

戦後の高度成長期に日本茶の需要は徐々に増加していきましたが、昭和60年代より日本人の食文化の欧米化により、全国的にも消費量は徐々に少なくなり今日に至ります。

我が社の特徴であります、まず2店舗にて販売、全商品100%狭山茶であること、また自社加工製品であることをモットーにしております。原料である荒茶は、自園以外は県内より仕入れ、全てに手を加え仕上げ、仕入れたままの商品を販売することはありません。

栽培にも力を入れ、今後10年の間に4haぐらいの規模にするのが大きな目標であります。独自の栽培法や加工法も取り入れ、また模索中であり、他社との差別化に努めております。



消費者のニーズに答えるべく、独自のアイテム(商品)の開発に心掛け、若年層の日本茶への関心を深めるよう努め、要請があれば学校教育の場として提供したり、出向いたりしております。店作りやPR法も若者を中心に幅広い年代の消費者を取り込むべく、心掛けております。

経営・製造においては、30年程前より省力化を進め、フルオートメーションの近代的な機械化と、伝統的な製法の組合せ、使い分け等により独自の商品となるように心掛けております。栽培、製造とも機械は最先端の最新鋭のものであり、商品の質も大きく向上していると思われま



す。今後は息子の経営を見守りながら、規模拡大にチャンスあらば努めていきたいと思っております。今までの経験を活かし、さらに大きな夢に向かって進んでいきたいと思っております。命ある限り！！



- 若松君 柴田パスト会長「会長に時間」ありがとうございます。古谷さん、卓話よろしくお願ひします。楽しみです。
- 稲見君 古谷パスト会長、お話楽しみです。よろしくお願ひします。狭山紅茶とお菓子ありがとうございます。
- 江原君 柴田パスト会長、会長の時間よろしくお願ひ致します。古谷パスト会長、会員卓話楽しみにしております。よろしくお願ひ致します。
- 古谷君 勝手なお話をさせていただきます。よろしくお願ひします。
- 浜野君 先週、ドイツのクリスマスマーケットに行ってきました。雪が降ってとても寒かったですが、綺麗でした。
- 竇積君 古谷パスト会長の緑茶と紅茶の話、楽しみにしてます。
- 奥富君 古谷様、今日の卓話よろしくお願ひします。
- 栗原(成)君 新宿で仕事の会議です。早退してすみません。
- 守屋君 古谷パスト会長殿、卓話ご苦労様です。柴田パスト会長殿、会長の時間のスピーチありがとうございます。
- 佐藤君 古谷パスト会長、急なお願ひにも快く引き受けて頂き、ありがとうございます。また、柴田パスト会長、パスト会長の時間楽しみにしております。両パスト会長よろしくお願ひ致します。
- 山室君 私事で、旅行キャンセル、又、例会欠席し申し訳ございません。